

KANAGAWA HOHYUH CLUB  
神奈川県放友会  
Newsletter



Vol. 5 No.2 APR. 2012  
第 18 号

神奈川県放友会

〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地  
ストーク伊勢佐木1番館 501号

TEL 045 681 7573 FAX 045 681 7578

発行人 長谷川 武

発行日 2012年 4月 1日

巻頭言

今私に出来る事

副会長 橋口 邦 紘

未曾有の大災害を経験し日本中が落胆しきっている中、予想はされたが早くも胸の痛む風評が蔓延しました。

風評被害の加害者たちは、自らの手は汚さずただ単に、福島産というだけで買わないか、場合によっては当局側に抗議の電話をかけるかメールを送りつけるだけ。それもその「抗議の声」なるものには「不安の声」という「衣」をかぶせるのだから始末が悪い。そして、それらを受けた当局側は、理を尽くして説得するわけでもなくただただビクつくだけで、結果は「中止」で幕を引いている。何という卑屈な残酷さ。

「がんばろう日本」なんて言っていたのは、どこに行ってしまったのか。思い起こせば京都五山送り火を巡っての一騒動、茨城、千葉、福島産の穀物、野菜の不買騒動など限りない。これら以外にも表面には出てこないヒステリー現象は数知れず存在するに違いない。しかもそのほとんどは感情的なものにすぎず、単なる思い込みだけで日本人が同じ民族に対して拒絶反応を起こしているのだから、卑屈な振る舞いと言うしかないのである。今の日本は「抗議」と「責任の所在」だけが横行しているようだ。

このように振舞う人は、自分の胸に問いかけてみるのだ。不幸に見舞われてしまった同胞に対してかくも残酷になれるのが、他の誰でもなく自分なのだ。

この恥ずかしい騒ぎの中で最も情けない現象が、被災地で出たがれきの処理を巡って起こっている騒動である。その処理への協力を申し出たのが東京都と山形県だけだと知って愕然とする。しかも今のところ処理しようとしているのは原発と無関係の岩手と宮城の両県だけではないか。

早速、東京都庁には抗議と不安の声が多く寄せられているようだ。処理に手を挙げたのは四十二都道

府県、五百七十二市町村であったのに、住民側からの抗議と不安の声に「寄り切られて」、我が神奈川県も上げていた手も下げてしまったようだ。

まるで、今の日本は「抗議」「不安」だけが肩で風を切っている。自分の考えることだけが正義であるという思い込みの下に、各地で起こっている放射能騒ぎも、一般の人は思いもつかなかった「放射能測定器」の出現とそれにまつわる測定結果の誤った解釈。少なくとも職業柄、ベクレル、ミリシーベルト、シーベルト、の区別はつけられる。自分だけでも、そして我が家族も「風評被害の加害者」にはなりたくないものだ。

この度の大災害、そして世界的恐慌は競馬界にも大きな影響を及ぼした。昨年五月には、あの数々の名馬を輩出した「メジロ牧場」が資金難と後継者不足により40年の幕を閉じ、12月には83年の歴史を持つ熊本の荒尾競馬場も廃止となり競馬ファンは非常に悲しんだ。関係者の一日も早い復帰と活躍を祈念する。本当にお疲れさまでした。

この度の震災の影響で中止になっていた福島競馬場、公営の岩手競馬場も建物の修理と除染が終わり再開のめどが立ち、関係者はもとより我々競馬ファンも安堵した。日本の競馬界は売り上げの25%を自動的に吸い上げる。つまり貴方が1000円馬券を買えば250円が開催費、JRAならば国の懐に入る仕組みになっている。外国は20%の国が多いので一昔前は取りすぎる。「ファンを無視している」と問題になった事もあったが、今日の日本をみるにつけ致し方ないと思う。

膨大な借金の日本だから、我々競馬ファンは今以上に「胸を張って馬券を買きましょう！」。

一日も早い復興を祈って。

若者たちよ、頑張ってくれ、年金暮らしのオジサンも頑張るから。

## 平成 24 年度 神奈川放友会総会資料

平成 24 年 4 月 15 日(日)開催、平成 24 年度神奈川放友会総会報告資料を掲載いたします。

本会の活動は 4 年を経過しました。

第 5 回目の総会にあたり、平成 23 年度の会務状況を報告して総会資料といたします。

- [内容] ① 平成 23 年度事業及び会計報告総括  
 ② 平成 23 年度 監査報告  
 ③ 平成 24 年度事業計画及び会計計画(案)

### I 平成 23 年度事業及び会計報告総括

神奈川放友会会則第 3・4 条に記されている目的・事業は、①会員の情報交換 ②神放技への協力、意見具申 ③21 世紀の医療と福祉の向上発展に寄与する社会活動への支援 に集約されますが、それに沿って執行部一同精進して来ました。

ご承知の如く「会費無しの運営」ですので、ムリはせず焦らずの基本ながら、役員と熱意と会員の協力で新しい活動であった「統一地方選挙への支援」活動に踏み込みました。また、茅ヶ崎市に於いて放射線量測定を 3 団体が実施し、一団体として参加した。

その活動状況を報告いたします。

- 1) 会員数 128 名 (男: 124 名 女: 4 名)  
2012 年 2 月 4 日 現在
- 2) 会 議 定例理事会 6 回  
23 年度 4/3 6/11 9/17 10/1 12/17 2/4
- 3) 事業活動
  - ① 「神奈川放友会 Newsletter」の発行 年 4 回  
第 14 号 Vol.4 No.2 2011.03.15 A4 版 8p 150 部  
第 15 号 Vol.4 No.3 2011.07.15 A4 版 8p 150 部  
第 16 号 Vol.4 No.4 2012.10.03 A4 版 8p 150 部  
第 17 号 Vol.5 No.1 2012.01.15 A4 版 8p 150 部  
平成 23 年度総会(2011.04.03) 書類により実施  
放談会の集い・震災の影響を受け中止  
(JR 横浜駅東口 そごう 10F を会場に企画していたが、東日本大震災を考慮し中止とした)
  - ② 大井競馬ナイター観戦 8 月 14 日 参加者 8 名
  - ③ 足柄のハーブガーデンを訪ね、ビール工場見学  
平成 23 年 10 月 30 日(日) 参加者 18 名
  - ④ 神奈川県放射線技師会への協力  
意見交換及び県技師会への具申
  - ⑤ 医療体制への鼓動―検診に携わった技師の記録―  
販売促進活動・販売数 885 冊(2012/02/04)
  - ⑥ 「神奈川放友会」の紹介及び会員登録の推進活動  
地域放射線技師会・放射線技術講習会・新春情報交換会等での役員参加による PR
  - ⑦ 県議会選挙での候補者支援活動
  - ⑧ 大気中放射線量の測定実施と茅ヶ崎市長への報告

### 4) 会計報告

#### 平成 23 年度 会計報告

	勘定項目	勘定金額
収 入 の 部	事業収入	
	購読料	60,000-
	事業運営費	83,700-
	出版収益費	6,640-
	寄付収入	14,406-
	利子	18-
	前年度繰越金	85,010-
	収入合計	249,774-
支 出 の 部	送料費	28,430-
	文房具費	20,705-
	事業実行費	83,700-
	印刷費	4,650-
	雑費	17,350-
	支出合計	154,835-
	繰越収支差額	94,939-

### 5) 役員

会 長(涉外)	長谷川 武		
副会長(総務)	橋口 邦紘		
監 事	草柳 伸彦		
理事(涉外)	早瀬 武雄	理事(総務)	村松 康久
理事(企画)	小松崎真一	理事(企画)	石渡 良徳
理事(企画)	奥山 清貴	理事(編集)	櫻田 晃
理事(編集)	小嶋 昌光		
相談役	萩原 明	相談役	柳生 博

### II 平成 23 年度 監査報告

監事 草柳 伸彦 ㊞

神奈川放友会会則第 11 条により平成 24 年 3 月 17 日に職務を実施したので報告する。

#### 1. 会計監査

会費無料の運営なので会計監査の必要性を認めにくい現状であるが、実質郵送料である購読料をうまく使い、技師会の支援や会員からの寄付金を合わせて、地道に運営されている。

敬意を称するが、役員負担の限度もあるので財源確保の検討をする必要性を認める。

#### 2. 会務監査

Newsletter 発行とイベント見学会企画を主体に、順調に行われている。放談会の中止は残念であった。

会員登録 128 名を記録しているが、放友会の発展のために会員登録に努力してほしい。また、イベント参加者を増やす努力がほしい。

3. 補足

- ①会員の自費出版方式で本会の企画・編集・出版発行を成功させた。会としてよい事業であった。
- ②選挙活動に踏み込み、支援候補者が初当選したことは大いに評価できる。今後も慎重に活動して欲しい。

Ⅲ 平成 24 年度 事業及び会計(案)

5年目を迎えた放友会はこれまで通り「放友会の仲間作り」を基本として、会の発展のために入会員促進に努力をしたい。そのためには地域放射線技師連絡協議会との連携を模索し、本会との共同事業などを深めつつ入会促進策を進めたい。

また、本会の評価はNewsletterの発行及びその内容により評価されるので、より充実したNewsletter発行を心掛けたい。

今年度の事業計画は、次の目標を置いて活動したい。

- ① 「神奈川放友会 Newsletter」の発行（4回/年）
- ② 施設見学・小旅行・懇談会などの開催
- ③ 放談会の開催
- ④ 会員入会登録の促進
- ⑤ 出版物販売の促進
- ⑥ 「神奈川県放射線技師会との意見交換
- ⑦ クリニック等における放射線業務の支援」を考える活動への支援
- ⑧ 議員（市県国）選挙への支援

平成 24 年度 会 計 (案)

収 入	購読料(140×500)	70,000-
	事業 参加費(4000×50)	200,000-
	(見学会・放談会)	
	出版物販売費	12,000-
	寄付金	10,000-
	前年度繰越金	94,939-
	収入合計	386,939-
支 出	送料費	30,000-
	Newsletter 発行費	60,000-
	事業実行費	200,000-
	文房具費	30,000-
	雑費	20,000-
	支出合計	340,000-
	次年度繰越金	46,939-

以上を平成 24 年度神奈川放友会総会の「総会資料」として報告いたします。

平成 24 月 3 月 17 日

会長 長谷川 武

神奈川放友会 Newsletter

投 稿 の お 願 い

神奈川放友会の機関誌「神奈川放友会 Newsletter」は会員からの投稿をお待ちしております。

Newsletter は会員への情報提供を目的に、会の全力を挙げて頑張っておりますので、各会員からの忌憚のない投稿原稿を期待しております。

特に堅苦しい規定はありませんので、下記の内容をご理解の上投稿して下さい。

発行日 年間4回(1月・4月・7月・10月)

発行ページ数 A4版 8~12 ページ

ページ設定 書式：原則は横書き2列(縦書きも可)  
用紙 A4 (210×297mm)

文字数と桁数 横文字 52 字×52 桁 (10.5 ポ)

マージン：10mm ・ フッター：10mm

投稿の区別

- 1) 論説 解説 主張 資料 コラム等
- 2) 文化関連 (趣味・旅行・俳句・短歌・川柳 等)
- 3) 図書 音楽 絵画 写真 等
- 4) 人物・職場紹介 求職・求人紹介
- 5) その他 (区分を問いません)

原稿は、原則はCD又はフロッピーでの提出をお願いします。

尚、ペーパー又はEメールにても結構です。気楽にご投稿下さい。(手書きでも可能です)

[原稿の送り先]

神奈川放友会事務局

〒231-0033

横浜市中区長者町 4-9 ストーク伊勢佐木1 番館 501 号

神奈川県放射線技師会事務局内

tel. 045 681 7573 fax. 045 681 7578

購読料納入のお願い

神奈川放友会は、機関誌「神奈川放友会 Newsletter」に対し、購読料年間 500 円を戴いております。

平成 24 年度分の「購読料 500 円」を納金下さい。

[ 振込先 ] . . .

下記の「神奈川放友会口座」にお振込下さい。

・「ゆうちょ銀行」口座をお持ちの方・・・振込料は無料  
口座番号 記号 10270 番号 87439571

・「ゆうちょ銀行」口座の無い方・・・郵便局で電信振込料  
120 円を払って

口座番号 記号 00270-6-番号 53977

Newsletter は年 4 回の発行ですが、神奈川放友会は「会費無料」で運営されております。購読料は郵送費に使われております。残りの 180 円が事業費となります。

ご理解の上、ご協力をお願い致します。

## 福島原発事故の心配事—福島の子供にひとりも影響が及ばないことを祈る—

中 村 豊 (国立病院機構相模原病院臨床研究センター)

はじめに

東日本大震災、大津波、東電福島第一原発事故から1年が経とうとしている。政府は早々と原発事故の収束宣言を出したが、4基の原子炉の制御と事故による汚染の拡大を防御しているだけで、原発近隣地域の除染を含め、避難した福島県民は未だ元の生活を取り戻してはいない。私は原子炉のベントや水素爆発の直後、政府の指令で避難した住民の被ばくが心配であった。特に、放射性ヨウ素による子供の甲状腺への影響である。I-131などのヨウ素核種はCsと比較すると短半減期であるため、現在では汚染問題にはなっていないが、事故初期には多量に放出された。原子力委員会ではI-131の空气中放出量を15万TBq(4月5日まで)と推定している。その影響を信頼できる情報から考えてみたい。

福島原発事故初期の経緯と対応(表-1)

日時	原発等の事象	対応
3月11日14時46分	東日本大震災発生	
19時03分		原子力緊急事態宣言
21時23分		半径3km圏内避難、半径10km圏内屋内退避指示
3月12日05時44分		半径10km圏内避難指示
15時36分	1号炉水素爆発	
18時25分		半径20km圏内避難指示
3月14日10時01分	3号炉水素爆発	
3月15日06時10分	2号炉で爆発音、4号炉で火災発生	
11時00分		半径20~30km圏内屋内退避指示
3月21日~23日	2, 3号炉で白煙発生	
3月24日~30日		現地対策本部が小児甲状腺調査を実施
3月25日		屋内退避区域に自主避難勧告

表-1は原発事故発生から約2週間の1~4号原子炉の状態と近隣住民への対応である。日本原子力学会調査専門委員会の暫定解析<sup>1)</sup>によれば、14日深夜以降、放射性物質放出量が多くなり、15日が陸側に影響を与えた最大放出量と見積もられている。放射性プルームは原発西側から北西に輸送され、降水により原発北西部や福島中通り、栃木県北部に高汚染をもたらした。20日~22日には再度、茨木を中心とした南方向の北関東、首都圏で汚染が増加した。21日に原発から南25kmの広野町で最大5600Bq/m<sup>3</sup>のI-131が観測されている。この値が1日続くとしてICRP Pub. 71の吸入等価線量換算係数などから

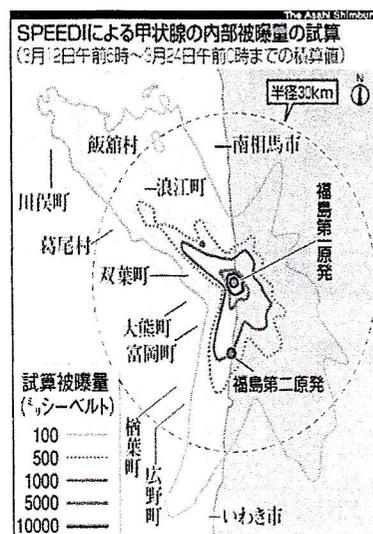
甲状腺等価線量は表-2のとおり93~49mSv(年齢1歳~成人)になると報告<sup>2)</sup>している。

原子力安全委員会は3月23日、原発事故の被災に伴う住民の被ばく量や放射性物質が降る範囲を、SPEEDIシステムで試算、結果を公表した(図-1)。原発から北西と南の方向に放射性ヨウ素が飛散し、最も影響を受けるケースだと、30キロ圏外でも12日間で100mSvを上回る甲状腺の内部被曝を起こす可能性がある、との結果が出た。委員会は、原発の被災後、12日午前6時~24日午前0時まで屋外で過ごしたという最も厳しい条件で、各地のモニタリングのデータなどを元にヨウ素の放出量を仮定、ヨウ素の影響をもっとも受ける1歳児の甲状腺の内部被ばく量を試算した。

I-131 5600Bq/m<sup>3</sup>環境での1日当たりの甲状腺等価線量(表-2)

年齢	甲状腺等価線量
1歳(1~2歳)	93mSv
5歳(2~7歳)	93mSv
10歳(7~12歳)	81mSv
15歳(12~17歳)	70mSv
成人(17歳以上)	49mSv

モニタリング値に年齢別呼吸量と吸入摂取等価線量換算係数を乗じる。



試算条件

原発の被災後、3月12日から24日まで屋外で過ごしたという最も厳しい条件で、各地のモニタリングのデータなどを元にヨウ素の放出量を仮定、ヨウ素の影響をもっとも受ける1歳児の甲状腺の内部被曝量を試算した。

- ①風向き
- ②地形
- ③天気(雨・雪)

(図-1)

試算によると、一日中外にいた場合、内部被ばくが12日間で100mSvに達する可能性がある地域には、原発の北西にある福島県南相馬市や飯館村、川俣町のほか、南に位置するいわき市などの一部が含まれていた。ただし、実際の避難時期や経路の解析から甲状腺等価線量の予想線量は100mSvを下回り、3月末に実施された1080名の未成年の甲状腺検査で全員が0.2μSv/h(100mSvに相当)以下であることが検証された。政府事故調査・検証委員会中間報告では避難の判断材料となるモニタリング装置

の多くが津波や停電で使用不能になり、現地対策本部長からの避難指示は市町村に伝えられなかった。SPEEDI が避難指示の意思決定に活用されず、指示は「とにかく逃げる」という避難方向も示されぬ、計画性に欠けた避難と報告されている。また、住民の被ばくスクリーニング検査は 11 日より実施を決めたが、福島県内の初期被ばく医療機関が避難区域に含まれ、ほとんど機能しなかった。ここで、今回の INES（原子力事故の国際評価尺度）7 と同等のチェルノブイリ原発事故の放射線被ばくによる住民被害<sup>3)</sup>をみてみると、ロシア、ベラルーシ、ウクライナの地域住民 500 万人では放射線の影響として科学的に認められたのは、被ばく線量は推定できていないが、約 4000 人の小児甲状腺がんが発生し、15 人（0.5%）の死亡が確認された。白血病や他の疾患の増加は認められていない。奇形や遺伝的影響も存在しない、と報告された。

ベラルーシにおける甲状腺癌の発生率（図-2）

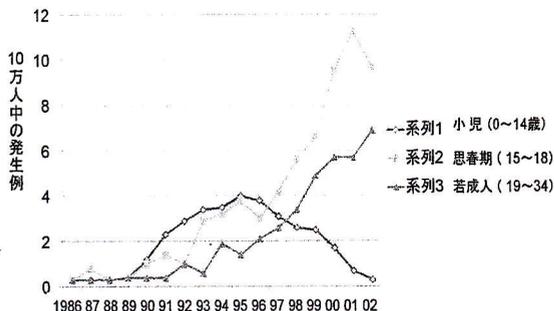


図-2はベラルーシにおける1986年原発事故発生からの甲状腺癌の年齢別発生率を表している。1990年までは増加はほとんどないが、1995年をピークとする小児甲状腺癌の増加があり、それが96年から減少していくことも、被ばくとの関連をサポートする結果となった。この地域では小児の潜在性の甲状腺癌は稀であるとの報告、またI-131が事故直後に飛散した地域を中心とする発症であるとの推計などから、事故直後の対応の遅れからI-131による汚染がミルクを通じて小児の甲状腺に集積し、癌が発生したと結論<sup>4)</sup>された。もちろん、チェルノブイリ原発事故は原子炉火災による放射性物質の大量放出とロシア政府による情報隠ぺいによる環境汚染が継続し、汚染ミルクの服用による甲状腺がんの発生である、ので一概には比較できない。しかし、低線量被ばくによる影響は現代の科学でも結論が出ていない未知の領域であり、100mSv以下では統計的に解明できていない。そして、小児甲状腺がんの発生は原発事故後5年ほどから増加していることである。

国際会議「放射線と健康リスク」<sup>5)</sup>では参加した世界一流の科学者から「緊急事態としてとられた原発事故対策

や「住民の避難や屋内退避を指導した」ことが非常に時宜を得てなされたと評価し、「線量モニターによる被ばくの線量は低かった」としている。また、「放射線被ばくに対して日本は世界でも最も高い対応能力を持っている」、「国際的な基準に則った今後の福島の住民の健康調査が極めて重要だ」として、現在行われている福島県民健康管理調査事業が基本調査、外部被ばく線量推計が高く評価された。さらに汚染された環境の中で生活をする以上は内部被ばく調査もしっかりやるべきだという意見も出ている。甲状腺は甲状腺ホルモンを分泌し、子供の成長や代謝に重要な臓器である。放射性ヨウ素による影響がないか継続的な調査が必要である。福島の子供はいろいろな制約と事情により故郷を離れ、日本の各地に住まなければならない状況にもある。その子供たちが一人として抜けることなく、今後の継続した万全の健康管理調査が受けられ、一人として影響が出ないことを祈っている。

#### おわりに

私は東日本大震災では初めて震度5強という強い長い揺れを体験し、帰宅難民、計画停電を経験した。今回の原発事故で直ぐに頭に浮かんだことが上記の心配事であった。私個人としては、幸いに失ったものは無かったが、無いものが分かった。政府の統制の取れた危機管理能力であり、個人の危機意識である。日本は地震大国である。地球の1/10の地震が日本で起こっているという。次の大地震がいつ、どこで起こるかは分からないが、家屋の耐震化、家具の固定、火災の防止、避難場所、経路の確認、2、3日分の生活必需品の確保など個人でできることは肝に銘じたい。

#### 参考文献など

原子力安全委員会緊急助言組織:「モニタリングデータに基づく放射性ヨウ素の線量評価について」に関する技術的助言、原子力安全委員会 HP

- 1) 福島第一原発事故に対する内部被ばく管理に焦点を当てて  
河野恭彦、他 Jpn,J.Health Phys.46(3),227~231 (2011)
- 2) チェルノブイリ原発事故報告書 IAEA・WHO (2006)
- 3) ベラルーシにおけるチェルノブイリ原発事故後の小児甲状腺ガンの現状  
菅谷 昭、ユーリ・E・デミチク、エフゲニー・P・デミチク、国立甲状腺ガンセンター(ベラルーシ)
- 4) 国際会議「放射線と健康リスク」平成23年9月11日~12日、日本財団主催、福島県立医科大学、記者会見・全文公表、日本財団 HP

## (社)神奈川県放射線技師会 平成24年 新春情報交換会報告記

年頭にあたり、恒例の神奈川県放射線技師会新春情報交換会が横浜のホテルキャメロットジャパンに於いて平成24年1月12日行われました。

当日、技師会副会長から放友会の挨拶を依頼されました。技師会会員であり放友会に所属している私は快諾する事にしました。

以下に参加し、挨拶をしたのでご報告致します。

### 会 場

新春にふさわしい雰囲気を感じられる会場風景であった。放射線関連イベントとして意義深い独特の重みを感じました。

### 交換会での挨拶

交換会は、司会者伊藤理事の発声で始まりました。

窪田技師会会長による挨拶は、今の社会及び技師会の現状、技師会員を増やす計画、震災関連での原発事故対応など多岐に渉るものでした。

中でも“なでしこジャパンの優勝”に感動したコメントは明るい印象を感じました。

乾杯に続く各界からの来賓挨拶は、明快さが感じられました。ことしから県会議員になられた合原康行議員の挨拶も、単純、明快な挨拶でした。

叙勲受章者による受章の言葉には、会場から大きな拍手が送られていました。神奈川県地域放射線技師連絡協議会の草柳会長からも挨拶がありました。

放友会役員からの出席は私と小嶋理事でした。恒例の新入会員紹介もあり、今年も頼もしい仲間が増えました。中には、仕事で遅れ紹介時に間に合わなかったために、一人で挨拶をすることになった“役得者”もいて会場を和ませていました。その後続いたお年玉抽選会の頃には、会の盛り上がりも最高点に達しました。



閉会の挨拶に立った上前副会長からは、これからの技師会に対する、なみなみならぬ決意に漲っております。

### 放友会からの挨拶



放友会から、次のとおり新年の挨拶とともに、最近の活動状況等についてご紹介させていただきました。

① 長谷川会長のスローガンであります“過去を語り、現在を語り、未来を語る憩いの館”と早瀬理事が提唱して来られた“神奈川県放射線技師会・地域放射線技師連絡協議会と放友会は車の両輪の様な関係であること”を引用させて頂きました。

②放友会は今、三期目であること。

- ・会員数は130余名、会費無料、購読料500円
- ・事業としてニューズレター発行、年間行事として放友会の集いを数回行っている。昨年はハーブガーデン・アサヒビール神奈川工場見学を行った。

③震災のこと。

④会員数を増やしたいこと。

などを盛り込んで話しをしました。

### むすび

会員より賛助会員数が多かったことは、時代背景なのでしょうか！放友会挨拶で会員を募集している事を話した直後に数名の入会希望がありました。

震災が起こり、社会が複雑化しているからこそ現状をしっかりと見据えることが大切だと思います。

その意味から情報交換会は必要不可欠だと思い、なるべく多くの方が参加されるように望みたいと思います。

[ 報告者 小松崎 真一 ]

## みんなの広場

### 被曝に関するネット相談窓口

#### 日本放射線技師会が開設

日本放射線技師会は環境省の要請を答えて、2月23日「放射線被曝の疑問に答える」インターネット相談窓口を開設した。この相談窓口は恒常的な健康相談につなげていきたいとしている。

環境省によると福島県は妊娠や15歳未満の子供に積算放射線量計を配布しているが、測定結果をどう解釈していいかわからないという声や、低線量被曝の安全性への疑問などが多く寄せられているという。

相談窓口は日本放射線技師会のホームページである(<http://www.jart.jp/hibaku/index.html>)からメールで受け付け、6人の放射線技師が疑問に答えることになっている。

#### 市立甲府病院の放射線技師

#### 放射性医薬品投与量の問題を苦に自殺か

3月14日に市立甲府病院の診療放射線技師長補佐の男性(54歳)が、駐車場の車の中で死んでいるのが見つかった。薬物を使って自殺したとして調べられた。

技師長補佐は子どもの核医学検査で、放射性医薬品を過剰投与した問題をめぐり、県警の家宅捜索を受けて任意で事情聴取されていた。

昨年9月1日には、病院側より放射性医薬品が過剰投与され、放射線技師が虚偽記載していたことを発表していた。「時間を掛けずに鮮明な画像を撮りたいので、うちでは多くしてやっている」と放射線部長に報告していたという。

1999～2011年に150名が奨励基準を超えるテクネチウムの投与量で、40人が10倍以上だったとされている。

独自の判断で基準より多く放射性医薬品が使われていたが、医師を含め、点検・是正する態勢がなかったようである。

#### 精米し研ぎ流すとセシウム除去が効果的

放射性物質セシウムで汚染された玄米を精米して水で研ぐと、放射性セシウムを7割以上除去出来るという。

精米した玄米を3回研いで市販の炊飯器で炊き、セシウム濃度を分析したところ、精米しただけで白米の濃度が40%減少し、研ぐとセシウムの一部が研ぎ汁に移り更に27%減少した。また、炊飯すると白米の水分が入り込んで濃度が薄まるために、炊き上がりの段階では玄米の約10%になるという。即ち、精米し研ぎ流して炊くと、セシウム汚染濃度が1/10になる。

福島県農業総合センターと放射線医学総合研究所の研究で分かったものである。

## 【偉人の名言】

今回は「21世紀に残すべき偉人たちの名言集」を掲載したいと思います。じっくりと味わってください。

#### ① ヴィルヘルム・コンラッド・レントゲン(1845-1923)

私は考えなかった。ただ探求しただけだ。

#### ② アーネスト・ラザフォード(1871-1937)

物理の原理をバーのウエイトレスに説明できないのであれば、それはウエイトレスではなく、その原理に問題があるのだ。

#### ③ マリ・キュリー(1867-1934)

人生最大の報酬とは、知的な活動の財産です。私たちはただ一つの関心、ただ一つの夢の中に生まれました。

私たち一人一人が改善していかなければ、素晴らしい社会の建設など不可能なのです。

チャンスというものは、準備を終えた者にだけ、微笑んでくれるのです。

#### ④ アルベルト・アインシュタイン(1879-1955)

学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる。自分の無知に気づけば気づくほど、より一層学びたくなる。空想は知識より重要である。

知識には限界がある。想像力は世界を包み込む。

一見して人生には何の意味もない。しかし一つの意味もないということはありません。

昨日から学び、今日を生き、明日へ期待しよう。

学校で学んだことを一切忘れてしまったときに、なお残っているもの、それこそ教育だ。

#### ⑤ 寺田 寅彦(1878-1935)

ものを怖がらな過ぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正當に怖がることはなかなかむづかしい。

「心の窓」はいつでもできるだけ数をたくさんに、そうしてできるだけ広く明けておきたいものだ。

健康な人には病気になる心配があるが、病人には回復するという楽しみがある。

わざわざは忘れたころにやってくる。

#### ⑥ 野口 英世(1876-1884)

人は能力だけではこの世に立つことはできない。たとえ、立身しても、機械と同様だ。

人は能力とともに徳をもつことが必要である。

努力だ、勉強だ、それが天才だ。誰よりも、3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ。

志を得ざれば、再び此の地を踏まず。

物理学者の偉人の名言を探してみましたが、最後には横浜に縁の深い野口英世の名言も掲載してみました。

皆さんは全部知っていましたか。

[ 総会と放談会の会告 ]

「会告Ⅰ」 平成24年度 神奈川放友会総会のお知らせ



平成24年度 神奈川放友会総会を下記の通り開催することを告示する。

平成24年 3月17日

神奈川放友会 会長 長谷川 武

- 開催日 平成24年4月15日(日) AM : 12:00~12:30  
開催場所 桜木町ワシントン ホテル 5階 BAY SIDE ドルフィン  
(JR桜木町駅東口 駅前) tel 045 683 3166
- 総会議事
- 1) 開会のことば
  - 2) 会長挨拶
  - 3) 議 題
    - ① 第1号議案 平成23年度事業及び会計報告
    - ② 第2号議案 平成23年度 監査報告
    - ③ 第3号議案 平成24年度事業計画及び予算案
  - 4) その他
  - 5) 閉会のことば

「会告Ⅱ」 平成24年度神奈川放友会「放談会」開催のお知らせ

平成24年度神奈川放友会放談会を、総会開催時の第2部企画として、同日開催いたします。気楽に集まり「過去・現在・未来」を語りましょう。万障お繰り合わせの上、是非ご参加をされますようご案内いたします。

神奈川放友会 会長 長谷川 武  
実行委員長 橋口 邦紘  
実行委員 村松 康久

- 開催日 平成24年4月15日(日) AM : 12:30~14:00  
開催場所 桜木町ワシントン ホテル 5階 BAY SIDE ドルフィン  
(JR桜木町駅東口 駅前) tel 045 683 3166 )

テーマ 「神奈川放友会の活動を考える」

“ 気楽にみんなで語り合おう ”

司会 : 副会長 橋口 邦紘 ・ 理事 早瀬 武雄

参加費 4,000円(放談会会食費)

\* 昼食を兼ねての放談会ですので、多数の参加をお待ちしております。

編集後記 例年にない低温と記録的な大雪をもたらしたのはラニーニャ現象という異常気象らしい。寒かった原因も地球温暖化とは意外だった。地球温暖化により、北極海の一部の海面が凍らないことが偏西風の流れを変え、寒冬を招いた可能性があるとか。大地震から1年。地震という天災は避けようがないが、ラニーニャ現象は人々の生き方、価値観を変えることで解決できる問題かもしれない。「言うは易し、行うは難し」だが…。